



自信・笑顔・希望の提供

真友ゼミ通信

共通テスト講評 号外

今回の真友ゼミ通信号外は『**共通テスト**』をピックアップ！

どんな問題傾向で、今後どのように対策をとっていくべきなのかを、特に変更が大きかった英語と数学の2教科について解説をします！新1年生から3年生の皆さんは要チェック！保護者の皆様もぜひご一読ください！

英語担当 中山（新潟校）



□出題傾向について

センター試験から大きく変わった点は、リーディング問題が**読解問題のみになって語数も大幅に増加した**こと、リスニング問題は大半の問題の読み上げが1回だけになり**聞き直しができなくなった**ことです。

英文や読み上げ文自体のレベルも設問の難易度もセンター試験から変化はなく平易なままですが、試験時間の変更がなかったため**時間内にこなす分量が大幅に増える**結果となりました。

センター試験以来、情報の概要を素早く読み取りかつ聞き取る力を測るという出題意図は変わっていないため、一文一文が全て理解できる力ではなく英文と音声は伝えていることの**要点を把握する力**のほうが重視された出題となっています。

□対策方法について

情報の概要を把握する力のほうが重視されているといっても**一文一文を正確に読む力があることは大前提**です！

そもそも共通テスト後の大学の個別試験は文の要点把握程度で済むようなレベルではありません。個別試験の対策を共通テスト終了後から始めるのでは間に合わないので、最初から**個別試験までをイメージした学習**をおこなっていく必要があります。

リーディングは**大量の問題を短時間にこなす時間感覚の習得練習**も早い段階からおこないつつ、**一文一文を正確に訳す訓練**とそのための**英文法知識の土台を固める**ほうを重視し、リスニングは慣れが大事なので、音源を入手して毎日短時間でよいので**シャドーイング**することをお勧めします。

数学担当 小笠原（仙台校）



□出題傾向について

数ⅠA、数ⅡBともに第1問から第5問うち4問を解答する形や、選択問題の順番の変更はあったが、出題傾向も変わらず、受験生も対策ができなかったということはないと思われる。

数ⅠAの問題は時間がセンター試験の時より10分増えたとはいえ、選択問題によって7～8ページ増えているため余裕はなかったと思われるが、昨年度のセンター試験でも問題文の増量が行われていたため、時間延長分の増量は予測されていたことでもある。むしろ文章を読むにしたがって誘導されながら解答できていく問題もあり、**数学としての問題の難易度としては決して高くない。**

数ⅡBも昨年度より4ページほど問題は増えている。関数の問題は従来の計算中心の問題から、文章を読む過程で解答をする問題やグラフを選ぶ問題も含まれるため、数学を得意としている受験生以外にも読解力を備えている受験生には取り掛かりやすかったと思われるが、**文章を読むことに不慣れな受験生にとってはまず何を書いてあるか理解するだけで精一杯だったと思われる。**

□対策方法について

今後の対策として、**数学は公式を暗記すれば何とかなるという過去の遺物的考えは捨てること。**

高2終了までに履修範囲の計算問題はマスターしておき、高3の1年間でそれをどのように使うかの練習が必要になります。**文章を読みながら、聞かれていることが何を求めているかを判断する練習です。**

これは学校の集団授業のみではなかなか難しいところがあります。人それぞれ発想するポイントが異なるためです。春休みのうちにいろいろな人の解説を聞き、発想が自分に合う解説をしてくれる人をみつけるのもいいかもしれません。

いずれ、計算式があれば答えが出せるという状態から、計算式を考えだし(見つけだし)てから答えを出すという力が必要になります。そのためには**多くの経験が必要です。**いまから1つずつ解決していきましょう。

編集あとがき

最初の共通テストは、想定していた範囲内での変更だったように思えます。英数以外にも、国語では新傾向の出題形式が取り入れられていたり、全教科を通して問題文の文字数が多くて複雑だったり、図表やグラフ・資料をよく読む必要があったりと、「読解力」が試される問題が多かった印象です。**文章を読むことが面倒で避けている受験生は、今後淘汰されていくことが明白なので、今から少しずつ訓練していきましょう！**